

驚きの発見：mRNA ワクチンが悲劇の副作用をもたらす可能性

By Jamie White

August 10, 2021

「スパイク蛋白質そのものの産物」を調べ、「血液病、神経崩壊疾患、自己免疫疾患など、幅広い、急性および長期的な病理を誘発する、その潜在可能性」を発見。

<https://www.infowars.com/posts/bombshell-study-finds-mrna-vaccine-may-cause-tragic-and-even-catastrophic-side-effects/>

ある査読されたアメリカの研究が、世界中に展開されている実験的 COVID ワクチンが、多数の有害副作用のリスクを潜ませていることを発見した。

この 2021 年 5 月の研究は「病気より悪質？ COVID-19 に対する mRNA ワクチンの、若干の、可能な、意図されなかった結果の再調査」というタイトルで、*International Journal of Vaccine Theory, Practice and Research* に発表されたもので、MIT Computer Science and Artificial Intelligence Laboratory の上席科学者 Dr. Stephanie Seneff と、Naturopathic oncology 専門家 Dr. Greg High によるものである。

<https://ijvtpr.com/index.php/IJVTPR/article/view/23/51>

<https://ijvtpr.com/index.php/IJVTPR/index>

この研究は、ファイザーとモデルナの実験的 mRNA ワクチンが、ワクチンを受けた個人たちに、深刻な有害効果を起こし得る、可能な筋道を徹底的に分析するものである。

「両方とも、筋肉注射を通じてもたらされ、共に RNA が崩壊しないようにするための、完全凍結保存を必要としている」と、セネフ及びナイは述べた。

「その理由は、非常に安定した、二重ひもの DNA とは違って、1本のひもによる RNA の産物は、暖かい温度にふれると、損壊したり、無力化されたりするからで、それらに潜在する効力を保つためには、極端に冷却しておかねばならないからだ。」

「ワクチンの中でできる、この形の mRNA は、自然界では決して見られないもので、したがって、未知の結果の生ずる潜在可能性を持っている… 生命コードを細工することは、完全に予想しなかったネガティブな、長期あるいは永久の効果さえ、もたらす可能性がある。」

この研究は、ある顕著なワクチン副作用としての、抗体依存強化（ADE、**antibody-dependent enhancement**）と呼ばれるものが、スパイク蛋白質によって、mRNA 注射を通じて、どのように人体の中に持ち込まれるかを説明している。

「mRNA ワクチンは究極的に、高度に抗原的(antigenic)なスパイク蛋白質を、抗原(antigen)を提供する細胞に、与えている。そのようにして、スパイク蛋白質に対するモノクローン抗体が、現在、広く展開されている、mRNA ワクチンのもたらす、結果として予想される」と、セネフとナイは書いている。

「人間の、スパイク蛋白質モノクローンの抗体は、内生的な (endogenous) 人間の蛋白質に対抗して、高レベルの、交差反応的抗体をつくり出すことが判明した。ここで部分的に再調査された証拠から考えると、スパイク蛋白質に対する抗体は、先行する SARS-CoV-2 の感染、またはワクチン接種に触発されて、ADE (抗体依存強化) に寄与すると考えてよい十分な理由がある。そしてこれが、急性または慢性の、自己免疫や、炎症の条件を明らかにする。」

この研究はまた、ワクチン shedding (周囲の人々に病気を移す形で、広く婦人病などを発生させること)、プリオン (伝染性蛋白質?) や神経崩壊疾患、それに公衆の少数者のワクチン接種によって起こる、コロナウィルス変異種などの、からくりを明らかにした。

この研究は結論として、公的保健機関は、公衆に対しては、新しい実験的テクノロジーを、もっと慎重に扱うべきであって、長期のデータがまだ十分でない時期に、あらゆる人々に対し、むやみやたらに注射すべきではないと言っている。

「大量ワクチン接種をめぐる公的な方針を喩えるなら、新しい mRNA ワクチンのリスク/利益の賭けのやり方は、いわば slam dunk (バスケットボールの超難わざによるショット) である。大規模なワクチン接種キャンペーンが、COVID-19 の国際緊急宣言に応じて行われ、我々は世界規模のワクチン実験をやってしまった」と、セネフとナイは書いている。

「少なくとも我々は、これらの実験から得られたデータを、この新しい、これまでテストされていないテクノロジーについて、もっと学ぶべきである。そして将来、我々が政府に

求めることは、新しいバイオテクノロジーに対しては、もっと慎重に行動すべきだということである。

[Gretchain 訳注]

最初に言っておくと、この論文のかなりの部分が、拙訳による「驚きの隠蔽事実：ノーベル賞学者〈ワクチンが変異種を創り出している〉」と、重なっていると思われる。どちらも素人の私の訳したもので、適当に直して読んでいただきたい。

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/210525.pdf>

この論文に、本当に興味をもたれる方には、引用されている論文自体をお読みくださるよう、切にお願いしたい。もし、こんなものに読む価値はないという、体制派の方々がおられるとしたら、本当にそうなのか再考をお願いしたい。我々の運命は専門家の方々に掛かっている。我々のこの危機を救えるのは、良心的な専門家だけである。この論者は、あくまで科学者の良心や善意を信じている。しかし我々は、この世界の背後に、不気味な悪意が働いているのを感じている。medical tyranny (医療暴政)などという言葉が使われ出し、コロナウィルスやワクチンは、なし崩しに、政府の管理の道具 (パスポート) に利用されるようになった。学者を含め、世界中の人々が、この危機的事情に気づいてくださるようお願いしたい。

注射にせよ何にせよ、「リスクがある、人命への危険がある」と、少なからぬ科学者の警告するものを、新聞がわざわざ笑いものとして書き、それに政府が乗って、「何も聞くな、とにかく注射を打て」といって、大ワクチン運動を起こしたのが、ここまでの経過である。これは恐るべき、かつ恥ずべき事態であるが、起こるべくして起こったことでもある。少しずつ、そのような方向へ誘導する者、それに協力する者たちが、この世界には、いることがわかっている。これは世界が、フランスのように、大運動を起こして、真実に目覚めるきっかけとしなければならない。